



2021年9月29日

各位

会社名 セーフィー株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 CEO 佐渡島 隆平  
 (コード番号：4375 東証マザーズ)  
 問合せ先 取締役 経営管理本部長 兼 CFO 古田 哲晴  
 (TEL. 03-6372-1276)

**東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ**

当社は、本日、2021年9月29日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年12月期(2021年1月1日から2021年12月31日)における当社の業績予想は、次のとおりであります。また、最近の決算情報等につきまして別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項目	2021年12月期 (予想)			2021年12月期 第2四半期累計期間 (実績)		2020年12月期 (実績)	
	対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売上高	8,020	100.0	58.9	3,808	100.0	5,047	100.0
営業利益又は 営業損失(△)	△454	—	—	95	2.5	△119	—
経常利益又は 経常損失(△)	△509	—	—	88	2.3	△97	—
四半期純利益又は当期 純損失(△)	△510	—	—	86	2.3	△99	—
1株当たり四半期純利 益又は1株当たり当期 純損失(△)	△10円93銭			1円89銭		△2円17銭	
1株当たり配当金	0円00銭			0円00銭		0円00銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。  
 2. 2020年12月期(実績)及び2021年12月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は期中平均発行済株式数により算出しております。  
 3. 2021年12月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数(3,297,700株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当増資分(最大1,351,300株)は含まれておりません。  
 4. 2021年6月4日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割を行っておりますが、2020年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失(△)を算出しております。

## 【2021年12月期業績予想の前提条件】

### 1. 全体の見通し

当社は「映像から未来をつくる」をビジョンに掲げ、家から街まであらゆるビジネスシーンの映像をデータ化することで、人々の意思決定を支援するクラウド録画型映像プラットフォーム「Safie」を開発・運営しております。「Safie」は高画質・安価・安全で、誰でも簡単にスマホやパソコンで使える監視カメラサービスとして、小売・外食・不動産・建設・警備・自治体などの幅広い業界で活用いただいております。監視カメラや防犯という用途にとどまらず、人手不足でチェックできなかった作業工程やへき地の現場の見える化や、遠隔地の現場や複数の現場の一括管理など、生産性向上や業務改善のための導入が広がっております。特にコロナ禍において、現場に出張に行く代わりに、屋外型の「Safie G0」やウェアラブル型の「Safie Pocket」や、各種の映像分析サービスやAPI連携機能を活用し、映像データを活用し、あらゆる産業の「現場DX：現場のデジタルトランスフォーメーション」を促進するツールとして幅広いシーンで活用されるようになっております。

様々なお客様の現場でご利用いただいた結果、2020年12月末時点での課金対象カメラ契約数は10.1万台（2021年6月末時点では、課金カメラ台数は12.9万台）となっており、2020年のクラウド型監視カメラ市場において稼働台数ベースで約47.5%（注）のシェアを獲得しております。

なお、新型コロナウイルス感染症については、経済や企業活動に広範囲の影響を与えており、今後の感染拡大の状況や収束時期等を正確に予測することは困難な状態にあります。当社においては、現時点で入手可能な情報に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が今後も一定期間継続するものと仮定し業績予想の見積りを行っております。なお、当社におきましては新型コロナウイルス感染症拡大により、小売・飲食業をはじめとする直販チャンネルでは受注が減少いたしました。遠隔需要の高まりから「Safie Pocket2」をはじめとする建設業向けの商品が好調に推移しており、現時点においてはその影響は軽微であるものと判断しております。

このような状況の下、従来の監視カメラ需要に加え、遠隔での業務管理の需要が高まっており、新規のカメラ導入案件が着実に増加すると同時に、業界別の新規ソリューションの開発も進めたことで売り上げが好調に推移しております。一方で、顧客の要望がより多様化・深化している状況を踏まえて、開発人員増強によるプロダクトの強化、積極的なマーケティング活動、および営業人員の増強により、広告宣伝費及び人件費などへの積極的な先行投資を見込んでおります。以上の結果、2021年12月期業績につきましては、売上高8,020百万円（前期比158.9%）、営業損失454百万円（前期は営業損失119百万円）、経常損失509百万円（前期は経常損失97百万円）、当期純損失510百万円（前期は当期純損失99百万円）を見込んでおります。

なお、当該予想数値は、2021年1月から2021年3月までの実績数値に、2021年4月以降の予測数値を合算して策定した数値となっております。

（注）テクノ・システム・リサーチ社「2020年ネットワークカメラのクラウド録画サービス市場調査」

### 2. 項目別の見通し

#### （1）売上高

当社は映像プラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しておりますが、売上高は「スポット収益」、「リカーリング収益」により構成されており、2021年12月期においてはリカーリング収益が全体の売上の54%程度になると見込んでおります。

##### <スポット収益>

当社のサービスの起点となるカメラの販売が大半をしめます。カメラ以外の周辺機器の販売、カメラの設置サービス料金、映像分析などの各種オプションアプリケーションに係る初期設定費用、カメラのレンタルサービスに係る初期設定費用もスポット収益に含まれております。

カメラ販売に係る売上については、直販顧客や販売パートナーなどの顧客セグメントごとに、予算策定時までの月次実績・トレンド、市場成長予測、および販売パートナーと協議の上作成する販売目標台数を基に各顧客セグメント別に販売台数を見積もり、これに想定販売単価を乗じることにより策定しております。2020年7月から販売開始した新機種Safie Pocket2の好調や販売パートナー各社における営業活動が堅調に増加していること、建設業界向けのクレーンカメラ連携やドボレコJKのリリース、金融業界向けのセキュリティ機能の強化などの業界別のソリューションの拡充が商談機会の増加に貢献したことから、2021年12月期のカメラの販売台数は2020年12月期に比べ3割程度の増加を見込んでおり、スポット収益は2割同程度の増加見込みです。

##### <リカーリング収益>

クラウド型録画サービスの利用料、映像分析などの各種オプションアプリケーションに係る売上、LTE通信の提供に係る売上、および一部のカメラのレンタルサービス料から構成されております。

リカーリング収益は、顧客から解約意思を示されない限り継続する自動更新契約から毎月得られる収益であり、継続して利用されることで収益が積み上がっていく、ストック型の収益モデルです。

- ▶ 当社は事業計画の策定にあたり、当社のビジネスの中核をなすクラウド型録画サービスの課金カメラ台数と、サブスクリプション型のビジネスにおいて重要な KPI と考えられている ARR(注) という 2 つの指標を用いております。またこの 2 つの指標について、ビジネスモデルの特徴から、直販顧客や販売パートナーなどの顧客セグメントごとに予算を策定しております。
- ▶ クラウド型録画サービスの期末時点の課金カメラ台数は、「(新規獲得台数+前期末課金台数-解約台数)」により策定しております。
- ▶ 新規獲得台数については、スポット収益におけるカメラの新規販売台数の見積り方法と同様です。
- ▶ 解約台数については、直販顧客や販売パートナーなどの顧客セグメントごとに設定しており、予算策定時の直近 12 ヶ月実績に基づき平均月次解約率を見積り、前月末の課金台数に乗じて算定しております。一部の販売パートナーについては、実施後 1 年未満のキャンペーン施策の影響を鑑みて 12 ヶ月実績ではなく直近の解約実績をもとにした推定値を用いております。
- ▶ ある期末の ARR は、その時点で継続的な収益の創出力を示す指標であり、期初の ARR と期中に増加する ARR の合計として算出されます。クラウド型録画サービスの利用料、映像分析などの各種オプションアプリケーションに係る売上、および一部のカメラのレンタル料から構成されており、それぞれのサービスごとの契約台数×単価により算定されます。
- ▶ 単価は各サービスかつ各顧客セグメントごとに前期実績と同水準の平均利用料売上単価を見積もることにより算定しております。

(注) ARR : Annual Recurring Revenue。対象月の月末時点の MRR (Monthly Recurring Revenue) を 12 倍して算出。MRR は対象月末時点における継続課金となる契約に基づく当月分の料金の合計額 (販売代理店経由の売上を含む)。

2021 年 12 月期において、販売台数およびスポット収益が好調に推移しているため、課金カメラ台数もリカーリング収益も順調に積みあがっております。以上の結果、2021 年 12 月期の売上高は 8,020 百万円 (前期比 158.9%) 2021 年 12 月末時点での ARR は 5,654 百万円 (前期比 172.1%) を見込んでおります。

なお、足許の 2021 年 12 月期第 2 四半累計期間においては、新規獲得台数が計画通りに推移する一方、Safie Pocket2 のレンタルなどの高単価なサービスが計画対比で増加したことなどから、売上高は 3,808 百万円となり、計画比 103.0%と計画を上回って進捗しております。また同四半期末時点における課金カメラ台数は、12.9 万台 (前年同期比 111.9%増加)、ARR は 4,549 百万円 (前年同期比 154.4%増加) となっております。

## (2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、主にスポット収益に係る仕入原価と、主にリカーリング収益に係るクラウドサービスの通信費、レンタルサービスのレンタル原価等により構成されており、2021 年 12 月期においてはスポット収益に係る仕入原価が売上原価全体の約 6 割を占める想定であります。

仕入原価は主にカメラ等に係る仕入に要する費用であり、スポット収益に関する売上計画に基づいて算出した仕入見込数量に前期実績と同水準の平均単価を乗じて算出しております。

通信費は主に録画サービス等の提供に係るサーバーの利用料金 (従量課金制) 等であり、クラウドサービスに係る売上計画に基づき、前期実績と同水準の平均原価率を売上計画に乗じて算出しております。

レンタル原価はレンタルサービスに関する売上計画に基づいて算出したレンタル稼働見込台数に前期実績と同水準の平均単価を乗じて算出しております。

その他原価についても、前期実績を基準とした平均原価率等を売上計画に乗じて算出しております。

以上の結果、2021 年 12 月期の売上原価は 4,853 百万円 (前期比 148.4%)、売上総利益は 3,166 百万円 (前期比 178.1%) を見込んでおります。

なお、2021 年 12 月期第 2 四半期累計期間における売上原価は 2,336 百万円となり、同期間における売上総利益は 1,471 百万円になりました。

### (3) 販売費及び一般管理費、営業損失

販売費及び一般管理費については、主に人件費、広告宣伝費、販売促進費、外注費、支払手数料等から構成されており、人件費が販管費の約5割を占めており、次いで広告宣伝費および販売促進費が3割弱を占めております。

人件費は既存の従業員数及び将来の採用計画を考慮した人員計画に基づき算出しており、採用計画に基づいて積み上げにより算出した採用費と合わせ、2021年12月期において1,738百万円(前期比178.8%)を見込んでおります。なお、2021年12月期末時点で、前期末比で開発・企画・営業・管理の各部門の人員の拡充により約9割の人員増加を計画しております。大幅な人員増加の理由は、好調な業績を背景に、様々な業界ごとの現場DX推進にむけ、業界別のソリューションの拡充および販売網の拡大と強化、上場後の成長に向けた管理部門の強化などを従来よりも積極的に行うためであります。

広告宣伝費は、新規顧客の獲得のため従来から行っていたWEBマーケティングに加え、2021年初頭からの会社のメディア露出の増加傾向を活かして新たに認知向上を狙ったメディア出稿、展示会出展等を積極的に行う計画に基づき、個別マーケティング施策の費用を積み上げた上で算出してしております。販売促進費は、販売取次先への顧客紹介手数料を取次販売先の売上計画に基づき算出してしております。これらにより、広告宣伝費は2021年12月期において584百万円(前期比288.6%)、販売促進費は2021年12月期において295百万円(前期比191.2%)を見込んでおります。

外注費は、前期実績と同程度である開発、デザイン等の業務委託に加え、業績の拡大に伴い外部を活かした効率的な業務体制を構築するため新たに請求業務やカスタマーサポート等の一部の業務を外注する予定であり2021年12月期において281百万円(前期比471.3%)を見込んでおります。

支払手数料は、過去の実績を基準に、従業員数比例のシステム利用料や手数料増加等の費用を見積もり、個別に積み上げて算出し、2021年12月期において173百万円(前期比192.3%)を見込んでおります。

いずれの費用に関しても、持続的な成長と競争力確保のための積極的な先行投資を行う方針であるため、前期比で大幅な増加を見込んでおります。

なお、その他の費目については、過去の実績を基準に個別に発生が見込まれる費用を積み上げて算出してしております。

また、2021年12月期においては、上記の他、外形標準課税の適用による租税公課の増加83百万円の計上を見込んでおります。

以上の結果、2021年12月期の販売費及び一般管理費は3,621百万円(前期比190.9%)、営業損失は454百万円(前期は営業損失119百万円)を見込んでおります。

なお、2021年12月期第2四半期累積期間における販売費および一般管理費は1,376百万円となり、同期間における営業利益は95百万円になりました。2021年下期において上期よりも人材採用および広告宣伝費を大幅に増加させるために、下期では営業損失が見込まれ、通年でも営業損失になると見込んでおります。

### (4) 営業外損益、経常損失

営業外損益の予想値については、業績予想作成時点で個別に見積もれるものを見込んでおります。2021年12月期については、営業外収益は見込んでおらず、営業外費用については支払利息、上場関連費用等の発生により55百万円の計上を見込んでおります。

以上により、経常損失は509百万円(前期は経常損失97百万円)を見込んでおります。

### (5) 特別損益、当期純損失

特別損益の予想値については、業績予想作成時点で個別に見積もれるものを見込んでおります。

2021年12月期において、特別利益及び特別損失は見込んでおりません。

以上の結果、当期純損失は510百万円(前期は当期純損失99百万円)を見込んでおります。

### 【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経営環境の変化等の様々な要因によって異なる場合があります。

以上



## 2021年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年9月29日

上場会社名 セーフィー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4375 URL https://safie.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 佐渡島 隆平  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長 兼 CFO (氏名) 古田 哲晴 (TEL) 03 (6372) 1276  
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年12月期第2四半期の業績 (2021年1月1日～2021年6月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	3,808	—	95	—	88	—	86	—
2020年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	1.89	—
2020年12月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 当社は、2020年12月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2020年12月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2021年12月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので、記載しておりません。
3. 当社は、2021年6月4日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算出しております。

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2021年12月期第2四半期	3,336	2,182	2,182	2,182	65.3
2020年12月期	3,093	2,095	2,095	2,095	67.6

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 2,177百万円 2020年12月期 2,090百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	—	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	0.00	—	—	—
2021年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年12月期の業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,020	58.9	△454	—	△509	—	△510	—	△10.93

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の業績予想の記載を省略しております。

当社は、2021年6月4付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。2021年12月期の業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期2Q	45,850,000株	2020年12月期	45,850株
② 期末自己株式数	2021年12月期2Q	—株	2020年12月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期2Q	45,850,000株	2020年12月期2Q	—株

（注）当社は、2020年12月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数（四半期累計）を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間においては、遠隔業務の需要の高まりから「Safie Pocket2」や「Safie G0」などの商材が建設業界のみならず、他の業界での導入も広がり、全社の業績が好調に推移しました。また、課金カメラ台数及び月次売上高の拡大に向けて、人材採用をはじめとした営業体制の強化のほか、新機能のリリース、様々な業界の現場のデジタルトランスフォーメーション推進に向けたプロモーション施策に取り組みました。

この結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高3,808,826千円、営業利益95,411千円、経常利益88,574千円、四半期純利益86,823千円となりました。

なお、当社は、映像プラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は3,033,000千円となり、前事業年度末に比べ170,063千円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が70,121千円、商品が60,324千円、その他が30,964千円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定資産は303,055千円となり、前事業年度末に比べ72,630千円増加いたしました。これは、投資その他の資産が3,833千円減少した一方で、有形固定資産が76,463千円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は3,336,055千円となり、前事業年度末に比べ242,694千円増加いたしました。

## (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は1,027,053千円となり、前事業年度末に比べ164,325千円増加いたしました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が113,220千円、賞与引当金が30,250千円減少した一方で、買掛金が127,533千円、短期借入金が100,000千円、その他が80,652千円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定負債は126,550千円となり、前事業年度末に比べ8,455千円減少いたしました。これは、長期借入金が8,455千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,153,603千円となり、前事業年度末に比べ155,870千円増加いたしました。

## (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は2,182,451千円となり、前事業年度末に比べ86,823千円増加いたしました。これは、四半期純利益を86,823千円計上したことにより、利益剰余金が同額増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は65.3%（前事業年度末は67.6%）となりました。

## (3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、1,548,821千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、87,998千円となりました。これは主に、税引前四半期純利益88,724千円、賞与引当金の減少額30,250千円、売上債権の増加額70,121千円、たな卸資産の増加額59,646千円、仕入債務の増加額127,533千円によるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、57,599千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出37,233千円によるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、21,675千円となりました。これは、短期借入金の純増加額100,000千円、長期借入金の返済による支出121,675千円によるものです。



(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の業績予想につきましては、本日開示いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。なお、上記に記載した業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,540,096	1,548,821
受取手形及び売掛金	813,786	883,907
商品	404,042	464,367
その他	106,633	137,598
貸倒引当金	△ 1,623	△ 1,694
流動資産合計	2,862,936	3,033,000
固定資産		
有形固定資産	9,648	86,112
投資その他の資産	220,775	216,942
固定資産合計	230,424	303,055
資産合計	3,093,360	3,336,055
負債の部		
流動負債		
買掛金	394,010	521,543
短期借入金	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	130,700	17,480
未払法人税等	2,290	1,899
賞与引当金	30,250	—
その他	305,476	386,129
流動負債合計	862,727	1,027,053
固定負債		
長期借入金	135,005	126,550
固定負債合計	135,005	126,550
負債合計	997,732	1,153,603
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,585,382	2,585,382
利益剰余金	△ 595,081	△ 508,258
株主資本合計	2,090,300	2,177,123
新株予約権	5,328	5,328
純資産合計	2,095,628	2,182,451
負債純資産合計	3,093,360	3,336,055

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
売上高	3,808,826
売上原価	2,336,868
売上総利益	1,471,957
販売費及び一般管理費	1,376,546
営業利益	95,411
営業外収益	
受取利息	3
補助金収入	1,456
その他	283
営業外収益合計	1,743
営業外費用	
支払利息	1,021
上場関連費用	5,100
その他	2,458
営業外費用合計	8,580
経常利益	88,574
特別利益	
固定資産売却益	149
特別利益合計	149
税引前四半期純利益	88,724
法人税、住民税及び事業税	1,900
法人税等合計	1,900
四半期純利益	86,823

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	88,724
減価償却費	7,594
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△ 30,250
受取利息	△ 3
補助金収入	△ 1,456
支払利息	1,021
上場関連費用	5,100
有形固定資産売却損益 (△は益)	△ 149
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 70,121
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 59,646
仕入債務の増減額 (△は減少)	127,533
その他	21,926
小計	90,272
利息の受取額	3
補助金の受取額	1,456
利息の支払額	△ 1,443
法人税等の支払額	△ 2,290
営業活動によるキャッシュ・フロー	87,998
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 37,233
有形固定資産の売却による収入	149
その他	△ 20,515
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 57,599
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	100,000
長期借入金の返済による支出	△ 121,675
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 21,675
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,724
現金及び現金同等物の期首残高	1,540,096
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,548,821

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、映像プラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。